

初めてのヘアカット [入門編]

4回のLessonカリキュラム。
昔からのステップに捕らわれず、自在に、最短で、
「クール」「キュート」「エレガント」を創ります。

2020.3

| | | | |
|--------------|----------|---|-------|
| SCHE DULE | Lesson 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢（正対）、コームの持ち方、ハサミの持ち方 ・ヘアデザインセクション（ブロッキング） ・頭のセクションごとの役割分担（ワンレンを理論的に解説） | WIG① |
| | Lesson 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・ステーションリー（ストランドを動かさないでカット） ・【AM】 30° 45° 60° 【PM】 60° スタイル 30° スタイル | WIG①② |
| | Lesson 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・トラベリング①（ストランドを頭の丸みに沿ってカット） 30° 45° 60° ・60° スタイル 襟足トラベリング45° | WIG② |
| | Lesson 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・フォルムの確認AM <p>パート、ゾーン駆使してあらゆるスタイルを表現！ ベースのフォルムをカット→テクスチャーカット&毛量調整で仕上げる</p> | |

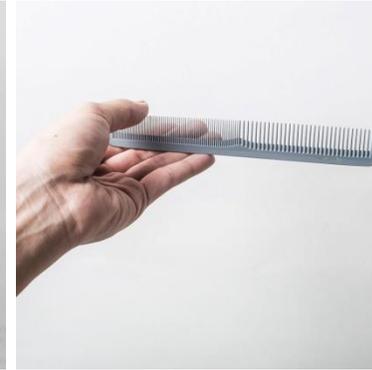
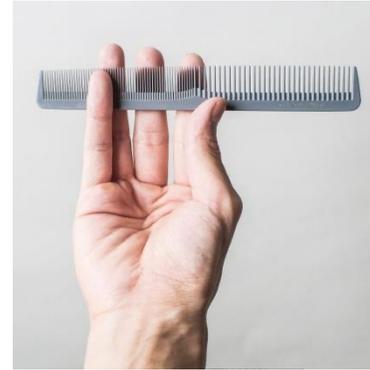
Gaff's Method
Cutting School
for Beauty
Hair Designers

モデルに対して正対して立つ

バックの左右の1mmの差がサイドきる頃には1cmにもなるカット。
 正確なカットを覚える段階においては正しく立つ事は大切です。
 両肩と地面が並行。
 長く仕事をするには両足に均等に体重をかけて作業しましょう。
 足を組むことや、片足立ちはだらしないです。



コームの持ち方



まっすぐ伸ばした腕
 に対してコームが垂
 直になります。
 基本的な持ち方を推
 奨しています。

刈り上げや下から
 すくうようにコー
 ミングする時に。

最も一般的な持ち方
 です。
 髪の毛などに影響を
 受けやすいです。

ハサミを正しく持つ (2パターン)

開閉トレーニング。動刃、静刃を意識してしっかり開ける様に。コームなし、コームあり、簡単なルーティーンで出来る様に。



掌を上に向けます。



刈シザーを薬指に入れ、そのまま人差し指の第二関節に置きます。



鋏体を人差し指の根元にずらします。



拇指を添えます。決して入れません。



示指、中指を挟体沿わせるように折ると、シザーが安定します。



ひっくり返して手を伸ばすとシザー刃先は持ち手の反対側の肩を指します。



そのままシザーが身体に平行になるまで肘を引いてきます。



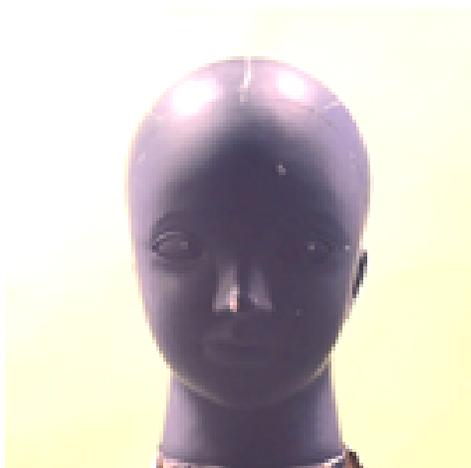
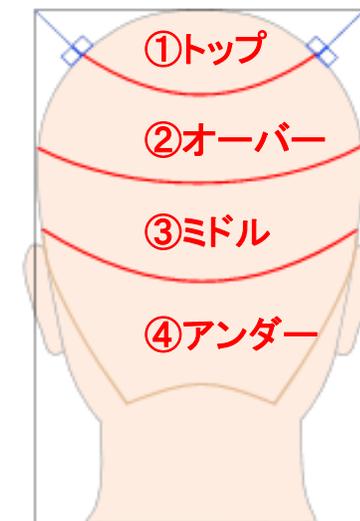
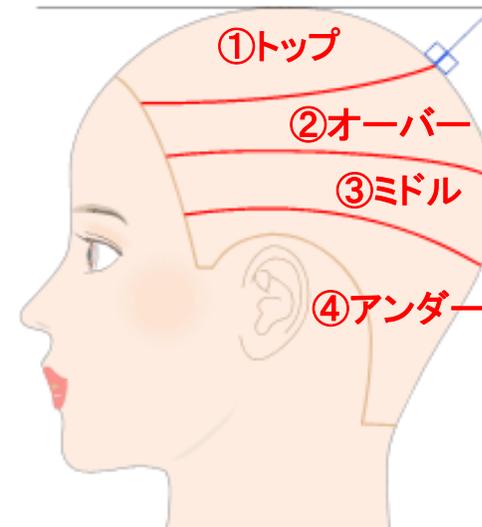
自分とシザーの距離です。ここでカットします。

ヘアデザインセクション

ダックカールの留め方
 アウトライン、毛量、動き等、セクションごと
 (top over middle underの役割を把握する
 フォルムの違いを認識する)
 セクションごと
 髪の毛がどう動くか、さまざまな現象を認識する

※トップの毛の濡れた髪から乾くと長さの伸縮率
 ※フェースライン、ネープラインの毛のはえ癖の認識

頭のセクション毎の役割分担
 ブラックウィッグを使って、セクションを
 チョークで書いてみる。

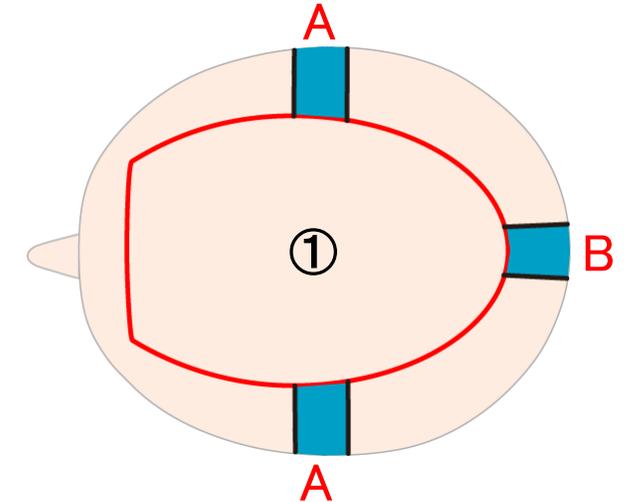
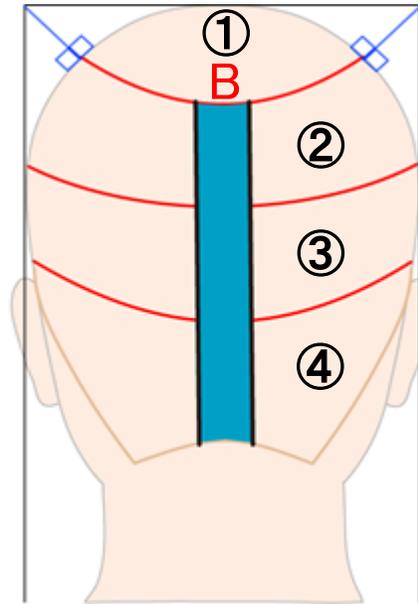
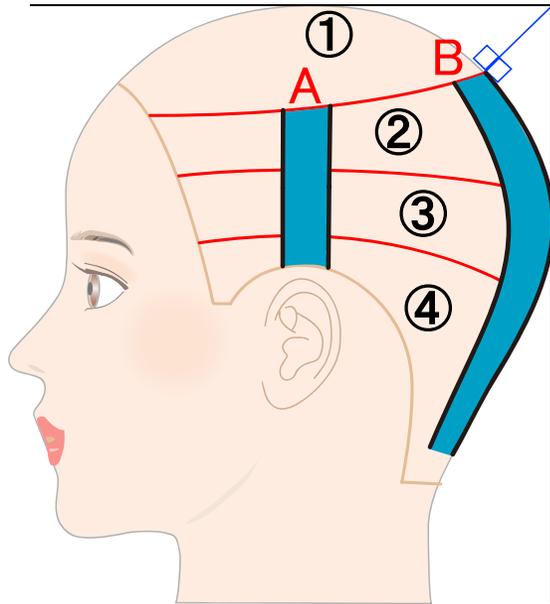


| | フォルム | 毛量調整 | 特性 |
|-------|------|------|--------------|
| トップ① | △ | △ | 毛量調整は注意 |
| オーバー② | ◎ | ○ | 縦のフォルム角度の変化大 |
| ミドル③ | ◎ | ◎ | 縦のフォルム |
| アンダー④ | ○ | ○ | ベースのフォルム |

ヘアスタイル（フォーム）の為のブロッキング

A：サイドのフォーム（前からのフォーム）

B：プロファイル（横からのフォーム）



センターパート襟足まで

フロント&サイド

A：イヤー toイヤー 前から見て一番張って部分、耳後点（耳の付け根の一番後ろ側）前に2cm

①：トップ（馬蹄） ②：オーバー ③：ミドル ④アンダー

馬蹄を丸く

B：バック 横から見て一番張って部分、みつえりの内1cmを目安にする

②：オーバー ③：ミドル ④アンダー

ワンレンを理論的に解説（間違いだらけのワンレンカット）

切って見る

ウィッグにおけるトレーニング

※切ることに慣れましょう

※ワンレングス真っ直ぐに切る。切ったパネルを重ねる。

＜間違いだらけのワンレンカット（注意事項）＞

①[おお間違い]ワンレンのラインをアンダーで決める
アンダーの髪は生え癖が強くラインのコントロールが不可能です
ラインはミドルかオーバーで設定する

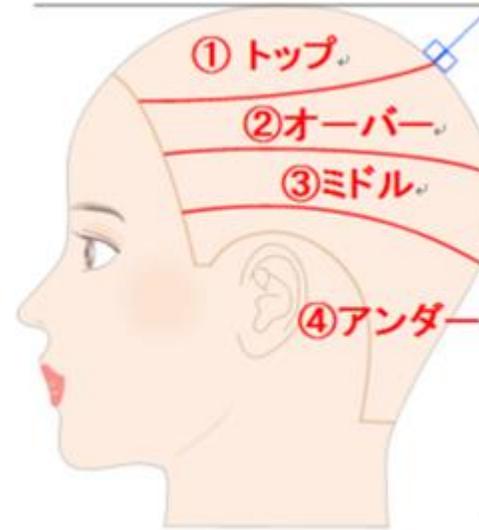
②毛量のコントロールはオーバーかミドルです

③トップは動きやすいのでドライ【少なくとも根元はドライ】でカットする
レングスがウエットからドライした場合、短くなるのは
トップ＞オーバー＞ミドル である事を認識する

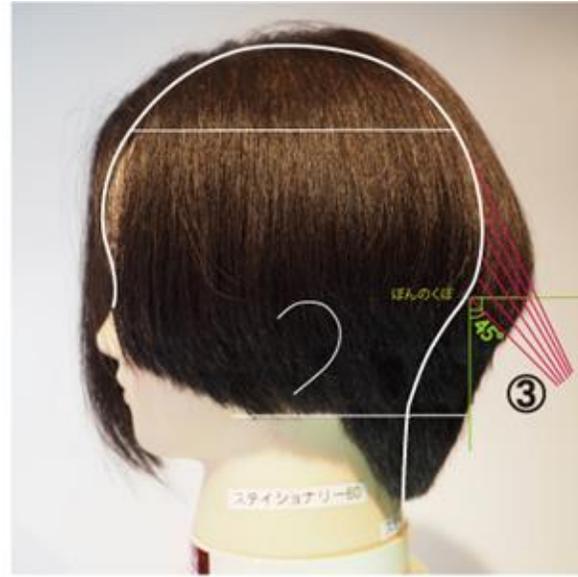
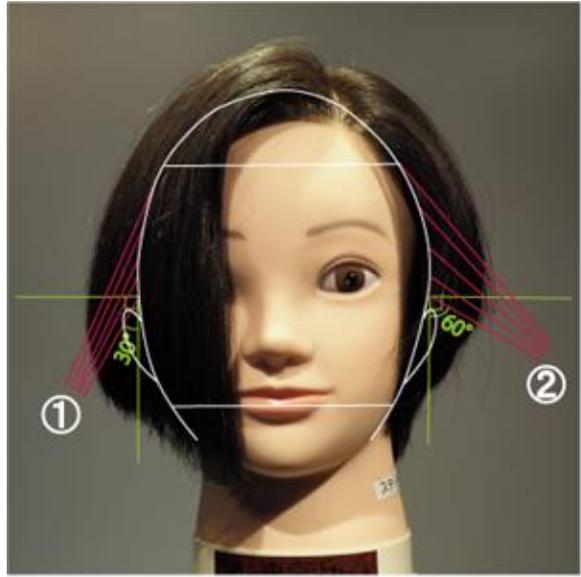
フロントはかき上げる場合も想定する

トップ：馬蹄を丸く

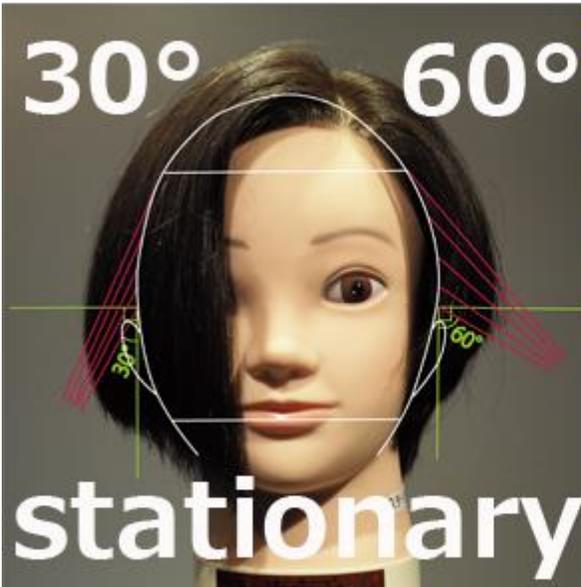
バック：1.オーバー 2.ミドル 3.アンダー



ステーションナリー（ストランドを動かさないでカット）



①30度 ②60度 ③バック45度 (写真を撮る)



シルエットの違いを認識する

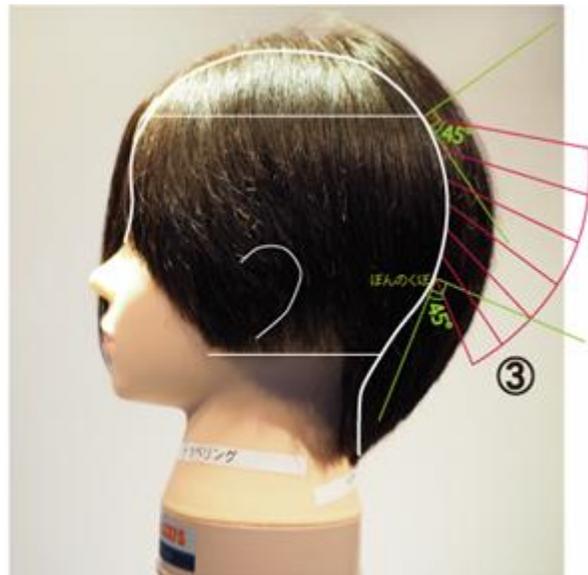
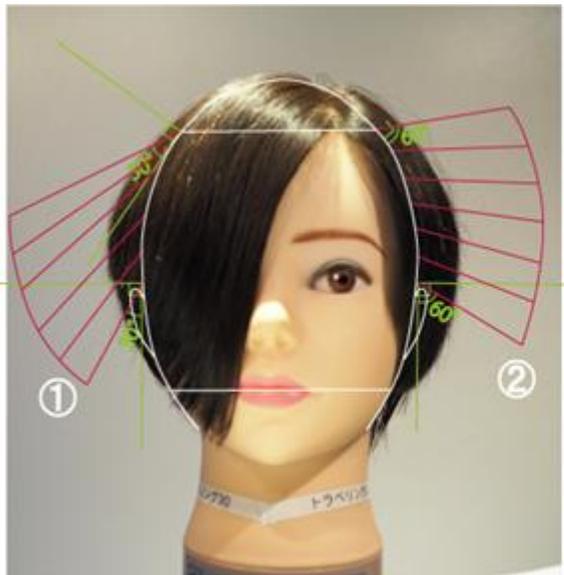
WIG①左側を60° フォルムをカットする

新しいWIG②で両サイド30° カット



仕上がり写真でフォルムの確認

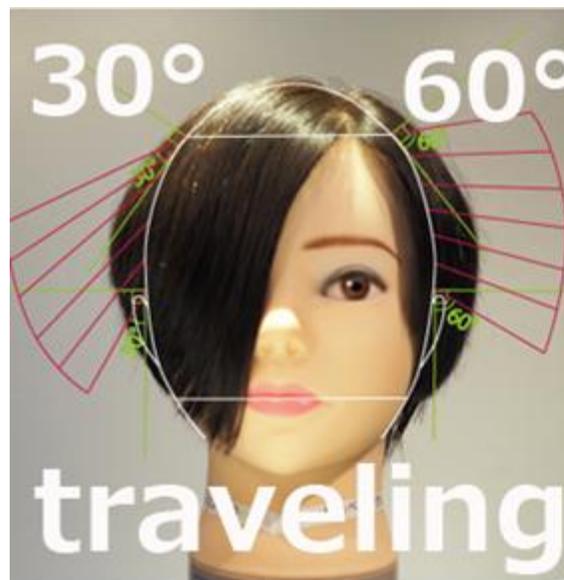
トラベリング (ストランドを頭の丸みに沿ってカット)



30° 左 45° 後ろ 60° 右 (写真を撮る)

頭の番地 (セクション) を意識してそれぞれの場所が
 こういった役割を持っているか理解する。

サイド、センターバックを決めたらバックサイドは角度を
 合わせて繋げる。



襟足トラベリング45°

WIG②左側を60° フォルムをカットする



仕上がり写真でフォルムの確認

パート、ゾーン駆使してあらゆるスタイルを表現！



ステーションリー30°



ステーションリー45°



ステーションリー60°



トラベリング30°



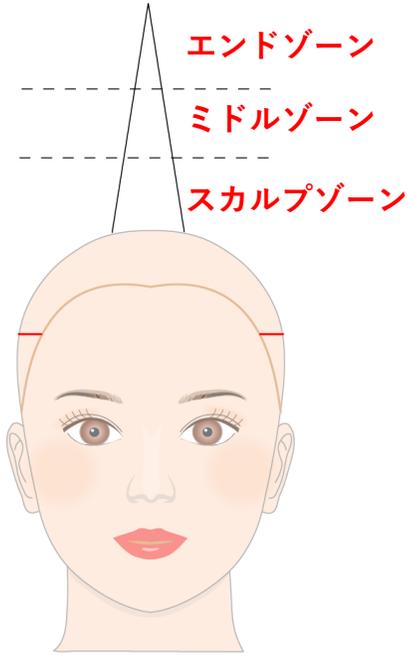
トラベリング45°



トラベリング60°

いろんなヘアスタイルをベースのフォルムをゾーン別にする、テクスチャーカット&毛量調整で仕上げる

セニング
(カットゾー
ン)

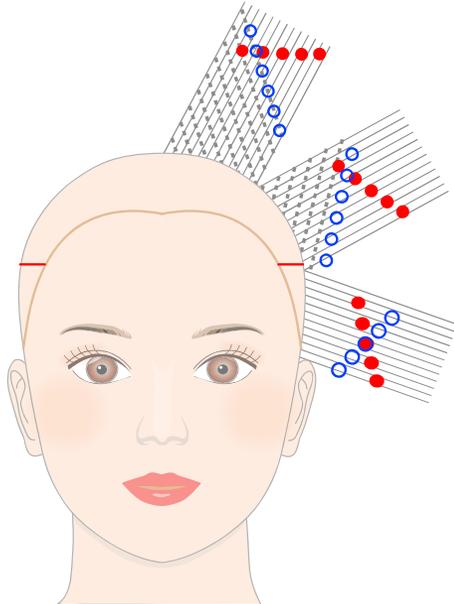


<エンドゾーン>
毛先の毛量調整、量感のなじみを作る

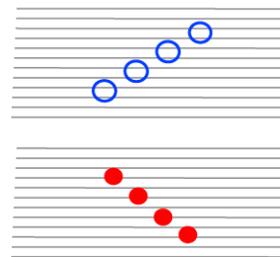
<ミドルゾーン>
毛量のコントロールをメイン

<スカルプゾーン>
ボリューム感を強調できる。毛量調整が多くできる
根元に入れますので切られた毛が強く立ち上がるのを注意。
ハーフドライカットで切った方が安全

セニング効果

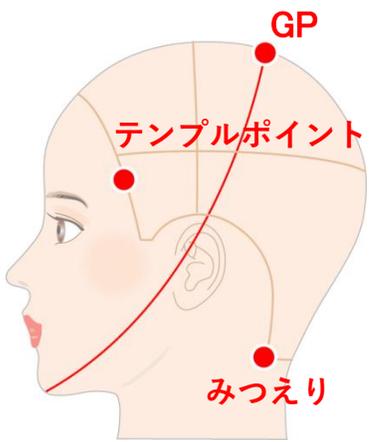
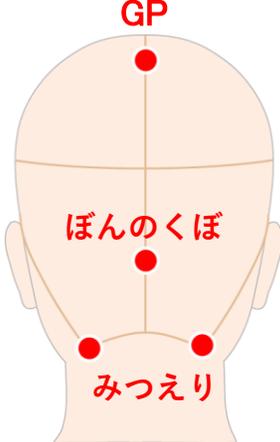
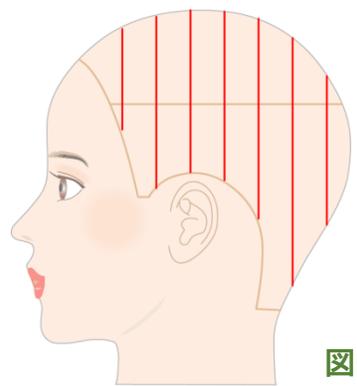
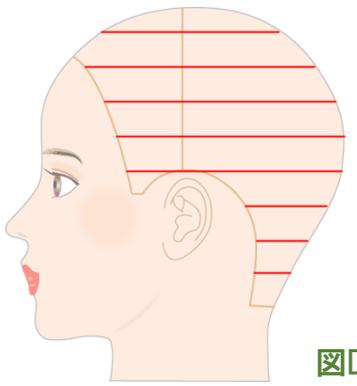
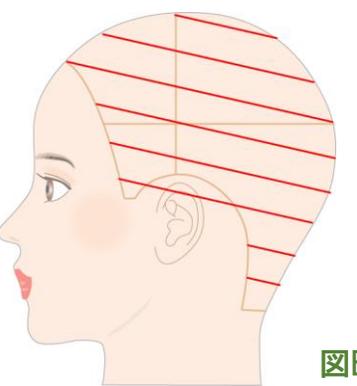
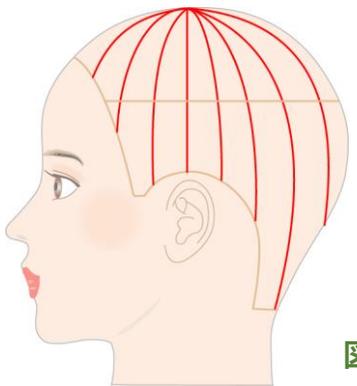


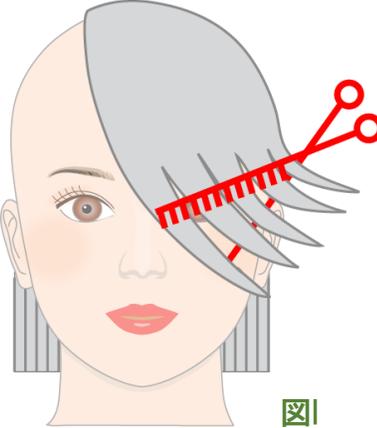
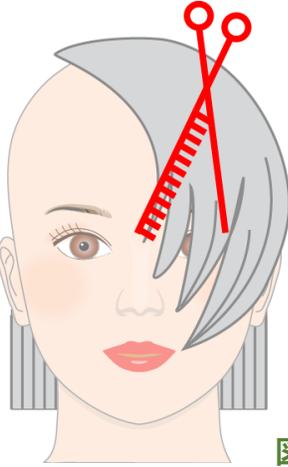
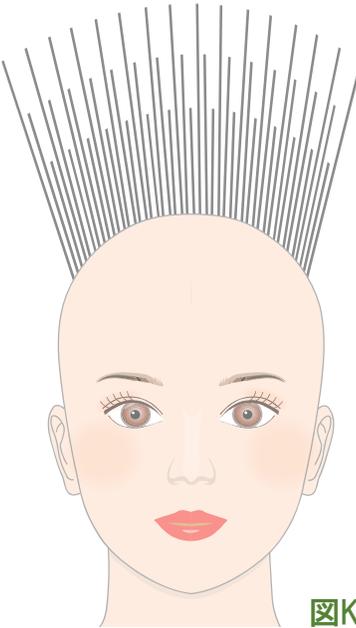
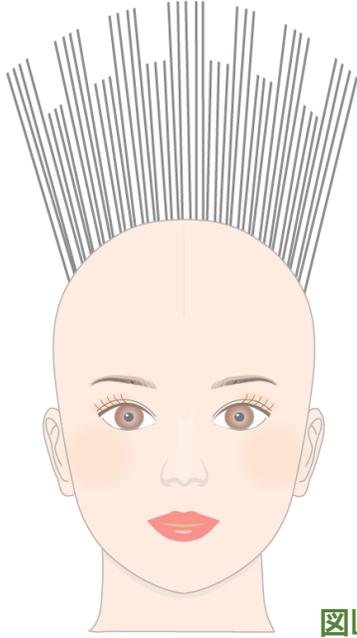
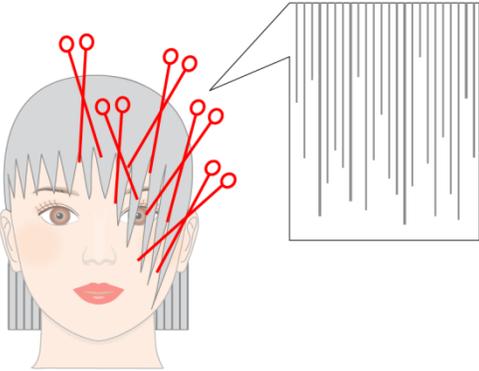
縦方向には毛量が少なくなった所ウエイトが移動しますのでフォームの微調整できます。
横方向にはセニングでは短い毛が押して毛流を作ると言われていましたが、横方向に手流があれば限定的には効果的ですが横には簡単には動かないと認識する。
※注意 --- の上ゾーンは、立つボリュームが出過ぎる危険があるため、ハーフドライ状態でカットする。



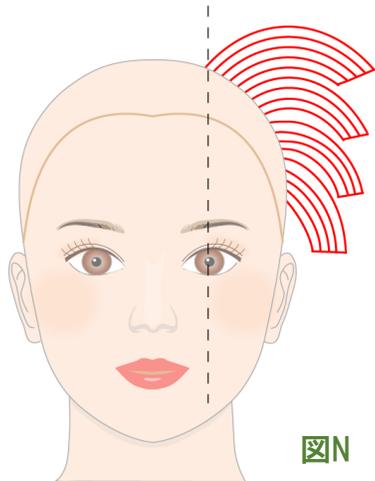
おさまりやすくなる (上側のウエイトが重たくなる)

動きやすくなる (上側のウエイトが軽くなる)

| | | | | |
|----------------------|--|---|--|--|
| <p>頭のポイント</p> |  <p>図A</p> | |  <p>図B</p> | |
| <p>カットスライスの種類、特徴</p> | <p>たてスライス</p>  <p>図C</p> <p>横のフォルムを初心者でも簡単に切れる</p> | <p>横スライス</p>  <p>図D</p> <p>たてのフォルムが初心者でも簡単に切れる。 多くのフォルムはたてです</p> | <p>斜めスライス</p>  <p>図E</p> <p>たて横の繋がりを一度に出来る。フォルムを形成するのが角度が難しい。 初級者にはフォルムをカットするのが難しい</p> | <p>放射線スライス</p>  <p>図F</p> <p>カットの起点が有る場合使う</p> |

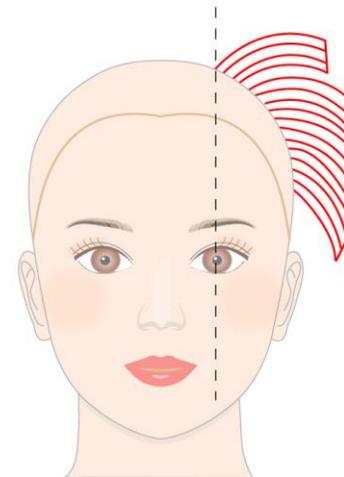
| セニング | | | | | |
|------|--|---|--|--|--|
| |  <p style="text-align: right;">図I</p> |  <p style="text-align: right;">図J</p> |  <p style="text-align: right;">図K</p> |  <p style="text-align: right;">図L</p> |  <p style="text-align: right;">図M</p> |
| | <p>横に入れることで単純に毛量を減らす。ファルムの毛を取りすぎない様に注意</p> | <p>毛の流れに垂直方向にセニング入れることで部分的にリュームが減り、毛先が軽く自然になじむようになります</p> | <p>毛の流れに水平方向のセニングはファルムの毛も無くなる恐れがありますので注意</p> | <p>基本テクニックはセニングと同様ですが、不規則に広い間隔でカットすることによってラフな質感になり、髪動きが協調されます</p> | <p>主に前髪やサイドに多く用いる技法で、毛量の調整が主な役割です。カッティングゾーンを変えることにより髪の立ち上がりやボリュームが求められます</p> |

テクスチャー
カット



図N

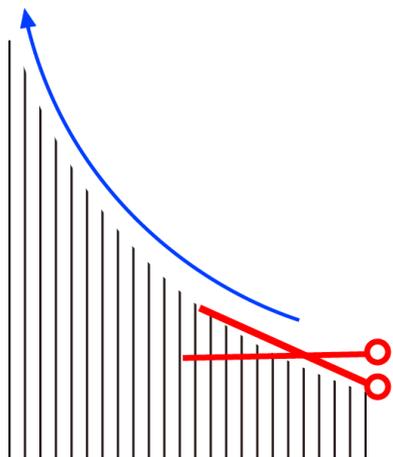
強いはっきりとした
質感、ボリューム感
を作ります



図O

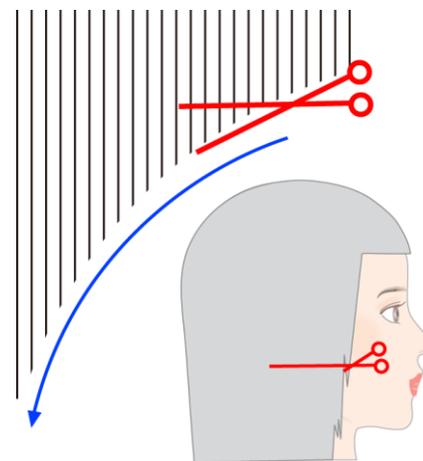
ソフトな質感、
ボリューム感を作
ります

スライドカット



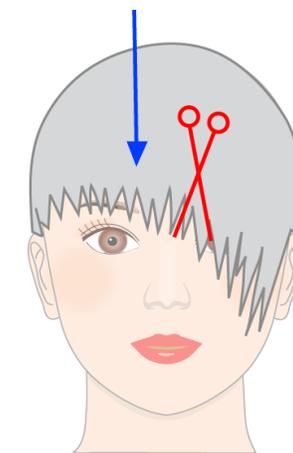
図P

毛先にいくほど細くなります
シザーを毛先へ向かってスライドする



図Q

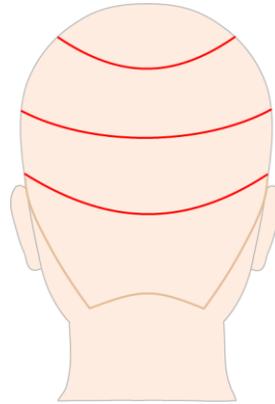
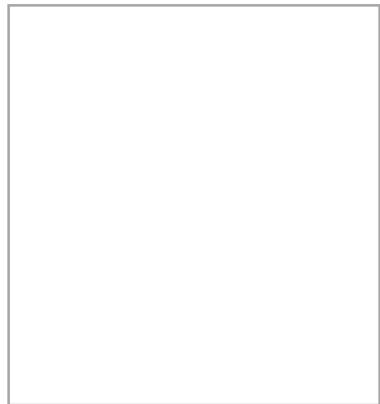
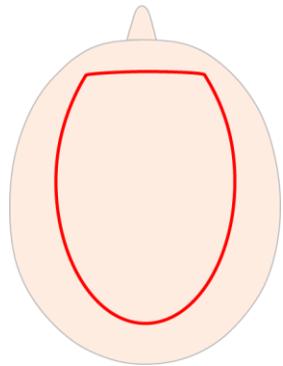
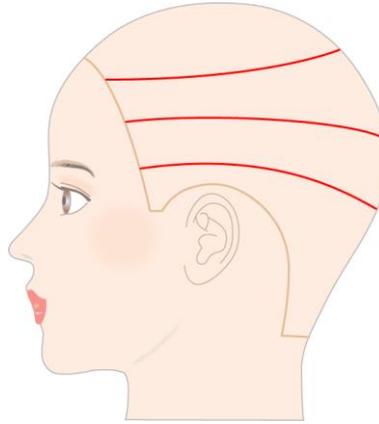
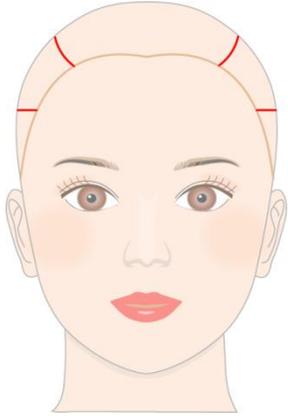
シザーを開閉しながら並行に移動します



図R

フェースラインの動きに合わせてスラ
イドカットします

フォルム、レングス&ライン



テクスチャー&セニング

